

国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業
ラムサール条約 世界湿地の日参加行事

田んぼ、お米、生きもの、農のある地域づくりに、関係する全ての人へ・・・

みんなの力で
日本の田んぼに
生きもののにぎわいを
取り戻そう！

2013年2月9日(土)

田んぼの生物多様性

サシバ
絶滅危惧Ⅱ類

レッドリスト：環境省



はじめに：世界湿地の日 (WWD)について

ラムネットJニュースレター11号より



●2月2日は世界湿地の日 ラムサール条約が採択された日である2月2日は「世界湿地の日」です。今年、世界湿地の日のテーマ／スローガンも「湿地と水管理／湿地は水を育む」となっています。条約事務局ではポスター（左写真）やリーフレットなどのツールを配布しています。

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト発進まで

水田の生物多様性向上
のための活動

- ふゆみずたんぼなどの取組などなど
- ラムサール条約COP10水田決議
- ~~~~~

水田の生物多様性
向上計画

- CBD COP10での活動(特に国連生物多様性の10年・水田部会)

田んぼの生物多様性
向上10年プロジェクト

- にじゅうまるプロジェクトへの参加とUNDBJ認定連携事業
- ワークショップ開催
- 行動計画策定

背景：ラムサール条約の下、20年以上に及ぶ田んぼの活動

直接のきっかけ：

1. 2010年 CBD COP10(愛知名古屋)での活動
2. にじゅうまるプロジェクトへの参加そしてじゅうまるのサポート
3. オリザネットさんの強力なサポート

1. CBD市民ネットの活動の中で

- * 水田部会としての活動(部会長 呉地正行)

(ラムサール条約COP10における水田決議をCBDでも活かす)

- * 「国連生物多様性の10年部会」での活動(部会長 柏木実)

(IUCN-Jシンポジウムでの呉地発言がもととなり、部会を作って政府やCBD事務局長、NGOなどと話し合っしてすすめた。)

⇒採択

COP10では、生物多様性に関する新たな世界目標が誕生

2050年までの長期目標：自然と共生する世界

2020年までの短期目標：「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急に行動すること」と、具体的な20の個別目標（愛知目標）を定めた

国連は、2011年から2020年までの10年間を「国連生物多様性の10年」と決定、この10年間には、愛知目標の達成のため、世界のあらゆる主体が生物多様性の問題に取り組むこと

日本でも、この10年を重点期間と位置付け、「国連生物多様性の10年日本委員会」を設立して取組みを進める



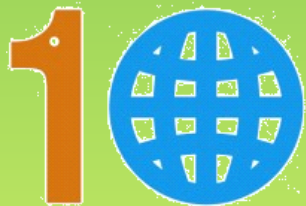
生物多様性の恵みを守り、受け継いでいくために、一人一人の力が必要

国連生物多様性の10年では

- * 目的：2011年~2020年、すべての分野の人々が協力して愛知ターゲットを実現すること
- * NGOもこの10年間に行動することを約束した。
水田部門の約束
＝「水田の生物多様性向上10年計画」の
立ち上げと全国展開



CBDCOP10：毎朝開催されたNGOミーティング



NGO Initiative for UN
Decade of Biodiversity

「国連生物多様性の10年」 行動計画

水田の生物多様性向上・10年計画

水田決議
(Ramsar + CBD)

全国計画

地域計画

地区計画

愛知ターゲット;

目標1, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 14, 17, 18

[]の生物多様性向上・10年計画

[]の生物多様性向上・10年計画

[]の生物多様性向上・10年計画

水田の生物多様性向上10年計画構想

2011年1月水田円卓準備会合資料より

しかし、2011年3月大震災と原発事故で活動中断

- * 湿地のグリーンウェイブ参加企画として同年4月に予定されていた
- * 「水田行動計画作りワークショップ」(GEOC)は「被災地NGO緊急報告会」に変更
- * 田んぼ主要メンバーは被災地復興活動に



2.

2011年10月「にじゅうまるプロジェクト」キックオフ
ラムネットも「田んぼ10年プロジェクト」「湿地のグリーンウェイブ」等で
参加登録



左から、呉地正行さん、岩淵成紀さん、新妻香織さん



にじゅうまる
プロジェクト



国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業に



2012年11月23日 行動計画作りワークショップ開催

3. オリザネットの「田んぼの生物多様性向上行動計画案」をもとに * 農家・自治体・NPO・企業・組合・研究者などが参加して話し合い

- 日時：2012年11月23日（金 祝日）及び 11月24日
- 場所：ワークショップ：NPO 法人民間稲作研究所・有機農業技術支援センター

（栃木県河内郡上三川下神主下原 233-1）

エクスカーション：渡良瀬遊水地周辺

- 主催：IUCN-J
- 共催：NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本
- 協力：NPO 法人民間稲作研究所 / NPO 法人オリザネット / NPO 法人田んぼ

11月23日

11：00～17：00：ワークショップ

11月24日

午前中：エクスカーション（渡良瀬遊水地と周辺のふゆみずたんぼ）



農家・自治体関係者・NPO・企業・生協・研究者等の参加者が
同じテーブルで意見交換できたことは画期的なできごとだった。



2012年11月23日 有機農業技術支援センター

2013年2月9日 田んぼ10年行動計画公開とキックオフ

小山市の支援で小山市立生涯学習センターで開催 オリザネットの作業により「田んぼ10年行動計画2013」の完成

愛知ターゲットや水田決議は、会議や専門家の間だけの話である間は実現しません。

私たちの行動で、生きものと共存する地域が実現します。そしてその地域をネットワークしてつなぐことで、持続可能な、生きものと共存する世界をつくっていきましょう。

そのための大切なスタートの日です。

たくさんの人々の**参加、行動**をお願いします。



おわりに
『記録して、努力すれば実現する』

CBD COP10後、2011年2月丸の内さえずり館でのセミナー
「渡良瀬遊水池」での提案

ラムネットJの課題 2



国連生物多様性の10年に向けたNGO行動計画

昨年日本の名古屋で開催されたCBD COP10で、私たちの発案で採択された決議(決定)が二つ

・水田関連決議(ラムネットJ/CBD市民ネット水田部会長 呉地正行)

・国連生物多様性の10年決議(UNBD10部会長 柏木実・発案 呉地)

陸水・沿岸海洋・農業決定や新戦略など、これらの決定を湿地保全活動に活かし、ラムサール条約COP11へつなげていくこと、さらにはCBD COP11へと。

・水田部会は国連生物多様性の10年に向けた活動計画を策定中

・湿地(陸水・沿岸海洋)も策定を予定

・事例紹介「生物多様性のための52の行動」

10年間の行動計画実施のイメージ

条約の決議・戦略 (分析) → NGO行動計画と実施 (優先性考慮) → 評価と見直し → 次のCOP

緊急課題・地域の問題等 ↗

ラムサール条約40周年記念＋国連生物多様性の10年 キックオフに向けたCEPAの新たな提案 －湿地のグリーンウェイブ－

- * 4月14日(干潟・湿地を守る日)～5月22日(国際生物多様性の日)を中心とした4月～5月に、湿地保全に関するイベントを「湿地のグリーンウェイブ」参加企画として、各地で自由に自主的に開催する。昨年「田んぼのグリーンウェイブ」を湿地に拡大し、まずは水辺環境を体験することで、自然との共生や持続可能な社会について考える機会づくりからスタートする。観察会・田植え・調査・ハイキング・シンポジウムなど参加企画は自由。皆様の参加をお待ちしています。**結果の発表は来年の2月2日に、渡良瀬(予定)で!**

詳しくは「ラムネット」HP: <http://www.ramnet-j.org/gw/>

